

# 平成20年度委託業務成果報告書

広島大学 アクセシビリティセンター

## 1. 事業名

文部科学省：障害学生受入促進研究委託事業：

「中等教育と高等教育を滑らかにつなぐ、最適な評価方法とユニバーサルな教育・情報支援の研究」

## 2. 事業の実施体制

【委託者】 独立行政法人 日本学生支援機構

【研究実施者】 広島大学アクセシビリティセンター

- 佐野（藤田）真理子（アクセシビリティセンター長・教授）
- 山本 幹雄（アクセシビリティセンター・准教授）
- 岡田 菜穂子（アクセシビリティセンター・特任助教）

【研究協力者】

- 広島大学入学センター
- 広島大学エクステンションセンター
- 広島大学キャリアセンター
- 広島大学保健管理センター
- 広島南特別支援学校
- 広島中央特別支援学校
- 鈴峯女子高校
- 広島山陽学園・山陽高校
- 広島市立阿戸中学校
- 広島市立安佐南中学校
- 広島市立国泰寺中学校
- 広島市立五日市中学校
- 東広島市障害者相談支援センター「はあとふる」

### 3. 事業の趣旨

近年、障害のある学生(以下、障害学生)の大学進学の際の機運が高まっているが、実際に大学に在籍する障害学生の比率は極めて少ない。現在の比率がどの程度、低いものなのかは、詳細な分析の必要があるが、大学進学に際して様々なバイアスがかかっていることは否めない。その一因として「知る」機会の少なさが挙げられる。本学に進学してくる学生も、情報支援や教育支援の方法を知らずに入学してくるケースが少なくない。このことは、中等教育において障害やアクセシビリティ、ユニバーサルデザインに関する意識や知識のある人材が極めて少ないことを示している。障害学生本人がこのような知識を得ることも大切であるが、中等教育、高等教育双方で、障害学生が在籍しない状況でも、取組が継承される土壌づくりが肝要である。本事業では、特別支援学校および県教委等中等教育機関と本学の間で学生・教職員の人材交流・情報交換を行い、「知る」システムの構築を図り、中等教育と高等教育を滑らかにつなぐ、継続性ある最適な評価方法とユニバーサルな教育・情報支援の研究を行う。

### 4. 平成 20 年度事業実績

#### ① 中等教育への学生学習補助者の派遣と情報交換

##### (1) 広島南特別支援学校への派遣

広島南特別支援学校における学習補助者として派遣した、本学独自の資格「アクセシビリティリーダー」資格取得者(以下、アクセシビリティリーダーとする)2名に対して、ヒアリング調査を行い、聴覚に障害のある学生に対する学習補助の課題を整理した。派遣学生からは、主にコミュニケーションスキルに関する課題等が感想として寄せられた。

##### (2) 障害のある小中学生の実態調査

東広島市障害者相談支援センター「はあとふる」と連携し、東広島市障害児余暇活動支援事業に対して、アクセシビリティリーダー4名を派遣した。発達障害児等の余暇活動支援事業に対して、大学からアクセシビリティリーダーを派遣する上での課題や派遣による効果などを、派遣学生に対するヒアリング等を行い整理した。